

○ 本校の概要

今年度は新校舎が完成し、生徒は、新校舎という恵まれた環境の下、様々なことに熱心に取り組んでいる。「礼節・自治・勤勉」の校訓を学校経営方針にも明確に位置付け、自主的に物事に取り組める姿勢を育成する働きかけを様々な場面で行う。教員の働き方改革にも着眼し、生徒の成長に資する活動と教員の勤務のバランスを考え、改善できるところを検討する。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		生徒の80%以上が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	4:		A		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのもののづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		生徒の60%以上が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	3:				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。		生徒の50%以上が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	2:				
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		生徒の50%未満が、「先生方はグループ活動など、話し合い活動を取り入れた授業をしている」と答えた。	1:				
プラン 2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		生徒の80%以上が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	4:		A		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。		生徒の60%以上が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	3:				
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。		生徒の50%以上が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	2:				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		生徒の50%未満が、「先生方はICT機器を使い、画像や動画を使い、授業を工夫している」と答えた。	1:				
プラン 3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		生徒の80%以上が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	4:		A		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。		生徒の60%以上が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	3:				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		生徒の50%以上が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	2:				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		生徒の50%未満が、「毎日の学校生活が楽しい」と答えた。	1:				
プラン 4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		生徒の80%以上が、「授業や活動を通して体力がついている」「週に6時間以上身体を動かしている」と答えた。	4:		A		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		生徒の60%以上が、「授業や活動を通して体力がついている」「週に6時間以上身体を動かしている」と答えた。	3:				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		生徒の50%以上が、「授業や活動を通して体力がついている」「週に6時間以上身体を動かしている」と答えた。	2:				
		保健体育の授業で準備体操後、補強運動(持久力を補う筋力トレーニング)を行う。	4:体育の全授業で行った。 3:体育の80%以上の授業で行った。 2:体育の60%以上の授業で行った。 1:体育の60%未満の授業で行った。		生徒の50%未満が、「授業や活動を通して体力がついている」「週に6時間以上身体を動かしている」と答えた。	1:				
プラン 5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		生徒の80%以上が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	4:		A		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。		生徒の60%以上が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	3:				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		生徒の50%以上が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	2:				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行なった。 3:学期に2～3回行なった。 2:学期1回以上行なった。 1:実施しなかった。		生徒の50%未満が「先生方は熱心に指導してくれる」と答えている。	1:				
プラン 6 なつて学校とともに家庭・地域が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		保護者の80%以上が、「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	4:		A		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。		保護者の60%以上が、「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	3:				
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行なった。 3:学期1回以上行なった。 2:年1回以上行なった。 1:実施しなかった。		保護者の50%以上が「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	2:				
		生徒に地域行事や地域の幼保園・児童館などの行事・校内落ち葉掃きボランティアへの参加活動を奨励し、参加した生徒が成就感を味わえるよう取り組んでいく。	4:90%以上の生徒がが成就感を感じた。 3:70%以上の生徒がが成就感を感じた。 2:50%以上の生徒がが成就感を感じた。 1:成就感を感じた生徒が50%未満だった。		保護者の50%未満が、「学校は学校行事などに地域の協力を得ている」と答えている。	1:				
		地域の方にも自ら進んで挨拶をするよう、指導する。	4:80%以上の生徒が行っている。 3:60%以上の生徒が行っている。 2:50%以上の生徒が行っている。 1:50%未満の生徒しか行っていない。							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。